

〔第65回企画展示〕

ふるさと歴史探訪

東平田の歴史民俗資料展

2階・酒田の歴史と民俗資料



延命寺の山門

開催期間 1991年6月5日(水)～7月21日(日)

開館時間 9時～16時30分

休館日 10月31日(水)まで無休

入館料 大人100円 児童・生徒50円

酒田市立資料館

酒田市一番町8-16 TEL(0234)24-6544

開催にあたって

人はいさ心も知らず古里は

花ぞ昔の香ににほひける

紀 貫之

酒田市の東端、出羽山地の西麓東平田一帯には、貴重な遺跡群と、史跡朝日山城や鷹尾山を中心とする信仰、板碑・奇石等々、ふるさとの心を素朴な語り口で今に伝える悠久の歴史と文化があります。

みどりのトンネルをくぐり、矢流川のせせらぎを聴きながら、これらの史跡を巡るとき、時空を超えて改めて広い歴史の舞台への親しみを肌で感じとることができるでしょう。

開催にあたっては、地区の部落長・各寺社関係者をはじめ、郷土史研究会、美術写真クラブの方々の全面的なご協力によって、企画から展示にいたるまで受け持っていただきました。ここにこのことを記して、厚くお礼申し上げます。



◀①一番古い板碑(県指定)

鷹尾山麓にある板碑群のうちでは最も早い正和3年(1314)のもので種子は「パン」である。俗称「守子石」といわれ、朝日山城落城の秘話を伝えてもの悲しい。



◀②聖観世音菩薩・関
曹洞宗高伝寺は元和元年(一六一五)嶺義春によって創建された古刹である。境内にある観音堂の御本尊として祀られている。

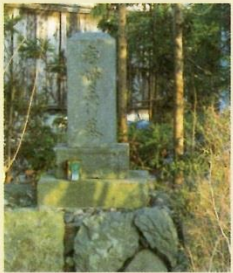


▲③笠松

ここに住む人々にとって、文句なしに第一にあげる名木はこの笠松である。

春のワラビ折から草刈り作業など、いつもこの木の下に憩い涼を求めて佇むという。

思い出がばい詰まっているからだ。「十二ひとえ生誕」の素朴な物語が語り継がれている。



▲⑤孝婦志げの墓

北境の梶原惣兵衛の妻で、中風をわずらう姑を15年間世話し、よく孝養を尽くした。

不慮の火災に会い姑を外に背負い出せず、ともに焼死したという。



▲④白山様

生石神社の奥に大きな岩があって、白山神社が祀られてある。この神は古来生石の鎮守神として祀られ白山様を孤が案内し、この大岩に導いたという伝説がある。

▼⑥不動明王石像(高泉神社)

北境口も鷹尾山へ登る道になっており、高泉境内に不動があるのも鷹尾山修験の名残りであろう。不動尊は不動使者と呼ばれ、大日如来の命を受けて、我々衆生を導いてくださるのであるが、実は大日如来そのものが姿を変えて出現されるともいう。



歴史探訪ルートマップ



田面に水はきらめぎ、生命育む大地に光あふれる / 悠久の歴史とロマンを秘めて、語りかけてくるものは何か……

◀大森山展望台より村里を望む



◀⑦十二ノ木
旧生石村の南端一帯は、大昔泥海地帯であったといわれ、ここに数株の樹(古名ケヤキ)があった。十二ノ木はいつもこの樹木を目標にして往來していたという。それがそのまま地名となっている。



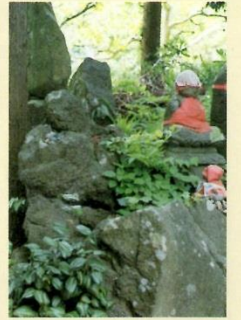
▲⑧金生神社・獅子巖

昔、金売古次父子がきて獅子巖を発見し、獅子巖を掘ったところ金が掘り出された。その金を京都に送ったという伝説がある。この由来が金生次の名称になったのである。



◀⑫復元古代登り窯

泉谷地・柳沢・願瀬等に見られる古窯跡は、当時使用された土師器や城輪柵などに使用された瓦などがつくられていた。生涯学習地域づくり住民会議の奉仕による作品である。



▶⑨雄石(猿石)

旧大石村(生石)には、五奇石をはじめ、石にまつわる伝説が多い。元亀元年(一五七〇)長宗上人が鷹尾峰に棲む山姥を退治して石にしたという。山姥は赤ん坊を抱いているように見える。ここに腰かけると石になるという。延命寺境内にはこのほかにも、般若石・鉄石・仁王石・妙拳石・曼荼羅石がある。



▲⑩泉谷地池

石沢にある標高45メートルに築造された灌漑用水池で、湖底から17基の窯跡が発見された。昔この地に長者が住まいし、繁栄していたと伝え、また、「泉ノ酒」物語など今も珍奇談として語られている。



▶⑪疱瘡神萬延二年(一八六一)大平

むかしから「ほうそう」の流行は恐れられていた。ひたすら神仏に治療を祈願した。その後も伝承され疱瘡神を送るという習俗は、親の子への愛情とともに、棧依に赤坂のおにぎりのをせ、ご馳走を供えて道端に送り出すことは、昭和の中頃まで行われていた。